エピソード46
「ごめん、お母さんが間違っていた。」

なみちゃん
　小学校教師として25年以上の経験があります。
エデュサポネットのファシリテータです。

COPYRIGHT © 2021 UEKI Katsumi, HOKKAIDO UNIVERSITY OF EDUCATION all rights reserved.

小学校の高学年を担任していた、30代半ばの経験をお聞きします。

参観日の授業中に、私が、かなり大きな間違いをしました。明らかに私の間違いだったので、子どもたちに謝りました。

ある母親から、「先生が、子どもの前で間違えたからといって謝るなんてびっくりした。間違えたことを謝れる先生は素晴らしい」と言われました。

その後、そのお母さんとは何かお話をすることがありましたか。

その数ヶ月後に個人懇談がありました。
この時もその話題を、お母さんが取り上げて話を聞かせてくれました。

我が子のあらたくんは、高学年になり親の言うことに口答えすることが多くなった、悪ふざけが増えた等、子育てに困っていたそうです。

お母さんは、子育てに困っていたのですね。

あらたくんはおっとりした子どもで、
高学年になり反抗期かなと思える様子が
目につくようになったようです。

お母さんは口答えするあらたくんに、思わず声を荒げてしまうこともあったそうです。

子どもを怒る回数が増えると、また怒ってしまったと自己嫌悪に陥りますね。

お母さんは、反抗期の子どもの特徴をよくわかっていました。

成長を喜びながらも、あらたくんの変化に戸惑うことが多かったそうです。

理解はしていても、気持ちが追いつかないことがありますね。

はい、お母さんのイライラがつのって、落ち着いてあらたくんにかかわるのが難しく感じられたのだそうです。

そんな時に、授業参観で私が間違いをして、子どもたちに謝った姿を見たのです。

お母さんは先生の姿を見て、あらたくんへのかかわりを考えたのでしょうか？

親が間違った時には「ごめん、お母さんが間違っていた」と言えるようになったそうです。

それで親も気がらくになった。あらたくんとの関係も良くなったと話していました。

そうでしたか。お母さんも気がらくに
なったんですね。

参観日で私が謝る姿が、親子間の良好な
関係に繋がったわけではないですが、

お母さんにとっては、ヒントになった
のかなと思いました。

なみちゃんの一言

- 反抗期は子どもが順調に成長している姿ですが、保護者はそれ以前の子どもの姿との違いに戸惑うことがあります。
- 保護者は先生の子どもへのかかわりを目にして、自分の子どもへのかかわり、子育てをふりかえることがありますね。
- 保護者が感じる子育ての難しさを理解して、子どもをともに育てるパートナーとして教師は保護者との関係をつくっていけるといいですね。

お・し・ま・い

イラスト　尾上樹里
（北海道教育大学 大学院生）

COPYRIGHT © 2021 UEKI Katsumi, HOKKAIDO UNIVERSITY OF EDUCATION all rights reserved.